ナショナルアートパーク構想　提言書

ナショナルアートパーク構想　提言書

平成 18 年 1 月

ナショナルアートパーク構想推進委員会

ナショナルアートパーク構想　提言書

はじめに
委員名簿
＜Ⅰ部：全体構想＞……1
1　ナショナルアートパーク構想……2
（1）　ナショナルアートパーク構想の位置づけ
（2）　目標とする都市像
（3）　取り組みの考え方
（4）　戦略的な目標
2　構想の組立と推進の方向性 ……　6
（1）　対象エリア
（2）　6つの拠点地区
（3）　創造界隈
（4）　ネットワーク

＜Ⅱ部：具体的な取り組み＞……14
3　象の鼻・大さん橋……　16
（1）　立地特性
（2）　構想推進の方向性
（3）　取り組み内容
4　山下ふ頭……20
（1）　立地特性
（2）　構想推進の方向性
（3）　取り組み内容
5　馬車道駅周辺……　22
（1）　立地特性
（2）　構想推進の方向性
（3）　取り組み内容
6　クリエイティブシティの推進組織……　25
（1）　組織の設立
（2）　組織形成の考え方
（3）　（仮称）クリエイティブシティ横浜

＜参考資料＞
◆　想定される事業……　29
◆　市民意見･アイデア募集実施結果……　30

ナショナルアートパーク構想～創造都市横浜への道筋～

ナショナルアートパーク構想推進委員会
委 員 長　北　沢　　猛

文化芸術は、市民生活を充実させるばかりでなく、都市の活性化（観光、集客、新産業）そして横浜市の国際的な競争力にとっても大きな効果をもたらすものであり、今後の横浜市の重要な政策です。

『文化芸術』の分野にもっとも顕著に表れる人間の『創造力』が、身の周りにある不安や困難そして資源や環境、平和や共存などグローバルな課題に立ち向かう力となります。

1　横浜の価値を高める創造力

横浜の新しい都市づくりは、市民の生活の質を高めること、また横浜の価値を高めることであると考えます。それを実現する『創造力』は、横浜そして日本の新しい時代を切り開いていく力になるという発想のもと、横浜の可能性を示したものが『文化芸術創造都市構想ークリエイティブシティ・ヨコハマー』（文化芸術・観光振興による都心部活性化検討委員会提言）です。この構想は、『創造力』がもたらしてくれる果実は、見失われてきた人間性や人と人との信頼関係の回復にあり、その力を有効に活用し、市民が都市文化を再興し世界に誇れる横浜を再構築するための目標や方針を示したものです。

創造都市構想は、創造的な人材が横浜に集まることで、新たな芸術や活動が生まれ、映像や映画、音楽、演劇、デザインを始めとするコンテンツ産業の集積へとつながり、さらに IT やメディア、出版やライフスタイル産業などの産業が集積することを期待しています。

横浜における創造都市の取り組みは、NPO と市が協働した BankART1929/NYK そして東京芸術大学大学院（映画専攻）の開設に始まり、民間主体の北仲 BRICK&WHITE などへと展開しています。また、横浜トリエンナーレ２００５の開催もあり、国内外から横浜の創造活動に関心を持つ人が増えています。

また、2009 年には開港 150 周年を迎え、記念事業がみなとみらい 21 地区から山下ふ頭を結ぶウォーターフロント軸において展開されるため、これに合わせ、先導的な創造都市形成の推進を図ることが望まれています。

2　高質な都市づくりとしてのナショナルアートパーク構想

関内地区やみなとみらい地区では、BankART1929 による実験事業のほかにも例えば山手の洋館群や赤レンガ倉庫などの歴史的建築物の活用があり、また横浜美術館などの既設文化空間の活性化とともに、横浜 BLITZ などの新しい文化空間も現れ始めました。9月 28 日から 12 月 18 日まで開催されていた横浜トリエンナーレ２００５は、山下ふ頭地区の上屋を活用して開催されましたが、ここにも新しい都市づくりの萌芽を見る事ができます。再生型の都市づくりはこれからの基本となるものであり、横浜の港周辺にある資源を活用した空間の整備こそ、横浜らしい都市づくりと言えます。

『ナショナルアートパーク構想』は、横浜の港と都心の都市づくり計画であり、「創造都市」に具体的な姿を与える計画です。横浜を象徴する『内港』とウォーターフロントエリアに『拠点地区』、そして旧市街地エリアに個性ある『創造界隈』を指定して、その方向性を描いています。今後、創造的な活動を担う人材や企業、地元、行政などが協力して、それぞれのエリアのビジョンを描き実践していくことを期待しています。

質の高い文化空間と街並や港の風景を保全し創りだすことによってのみ、横浜の優位性や世界的な位置を確保できると思います。

3　象の鼻・馬車道・山下プロジェクトは開港 150 周年が目標

横浜は、2009 年に開港 150 周年を迎えます。その節目の年を一つの目標として、先導的な事業を進めていく必要があります。馬車道駅周辺地区は、大学などの教育機関の立地などで、デザイン、アートなどに多くの人材と関連産業が集積し、『アジア・センター』となることが期待されます。また、横浜トリエンナーレが開催され 19 万人の人を集めた山下ふ頭地区では、港との結びつきを維持しながらも思い切った転換が行われ、映像や音楽などのコンテンツ産業を始めとする倉庫の大空間を活用する『スタジオ・コンプレックス』を提案しています。

開港の地『象の鼻』地区では、歴史ある港の空間を再生し、将来の横浜文化と市民生活を象徴する場となる期待があります。横浜は近代の演劇、音楽や美術の発祥の地で市民活動も盛んであるという蓄積を生かして、新しい時代を牽引していく「創造力」と「市民力」を示す空間として整備することを提案しています。

様々な市民が横浜港発祥の地である「象の鼻」に訪れ、港の風景と歴史に触れるとともに、様々な演劇や音楽を楽しめ、かつ創造の場面に立ち合うことが期待されます。劇場やスタジオが立ち並ぶエリアとして、市民は船でアクセスし港の夜景に触れ、また水上の劇場やステージを、あるいはライブハウスやカフェ・レストランなどを楽しむことができる夢のある街として、全体として一体感のある整備がされることを期待しています。

横浜市は平成 16 年４月に「文化芸術都市創造事業本部」を設置し、文化芸術創造都市の実現に向けて取り組みを加速しています。しかし、ナショナルアートパーク構想を始めとして、創造都市の具体化のためには、市民や地元、企業、NPO をはじめ、横浜市や神奈川県、国、関係機関という多様な主体が協働し、いかにその役割を果たしていただけるかが重要です。

ナショナルアートパーク構想推進委員会の提言は、開港１５０周年を迎える 2009 年を契機として達成すべき事柄の枠組みを示しているに過ぎません。

都市の新しい価値や魅力を創造し、世界に発信していくことが「創造都市」であり、今後横浜が、アジアから世界に発信する活動拠点となることが望まれています。横浜都心部や臨海部を創造的活動の舞台として、世界に向けてアピールできるよう、エリアごとに明確なビジョンと実現のための行動をおこすことが次なるステップです。横浜の将来やその創造性に大きな期待をよせている市民、企業、ＮＰＯ、行政の力が結集されることを期待しています。

ナショナルアートパーク構想推進委員会　委員名簿

梅　川　　智　也	財団法人日本交通公社研究調査部長	
岡　部　　明　子	千葉大学助教授	
加　川　　浩	都市プランナー	
北　沢　　猛	東京大学大学院教授　（委員長）	
篠　原　　康　弘	国土交通省関東運輸局企画振興部長	（第１回委員会（H16.9.1）～）
志　村　　務	同	（第４回委員会（H17.3.30）～）
西　阪　　昇	文化庁文化部芸術文化課長	（第１回委員会（H16.9.1）～）
竹　下　　典　行	同	（第５回委員会（H17.7.13）～）
近　澤　　弘　明	横浜中法人会会長	
南　條　　史　生	森美術館副館長	
藤　田　　郁　夫	国土交通省関東地方整備局港湾空港部長	（第１回委員会（H16.9.1）～）
難　波　　喬　司	同	（第５回委員会（H17.7.13）～）
根　本　　祐　二	日本政策投資銀行地域企画部長	
藤　木　　幸　太	横浜港運協会副会長	
山　本　　理　顕	建　築　家	

Ⅰ　全体構想

ナショナルアートパーク構想とは

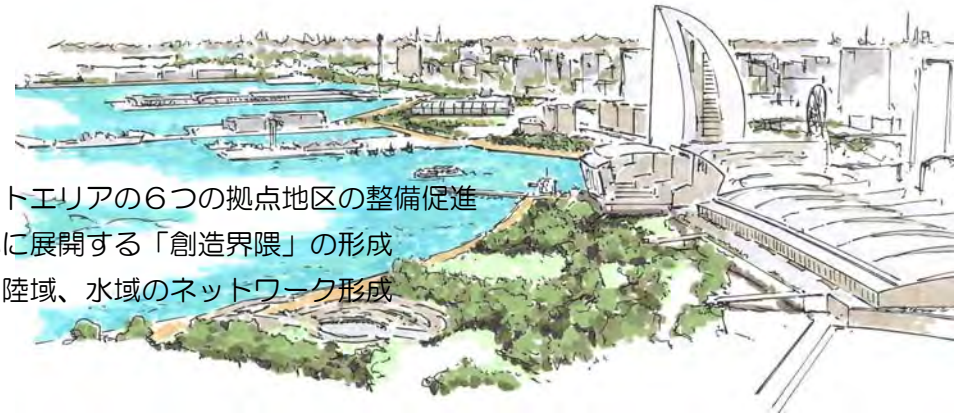
＊横浜を代表する都市空間である「都心臨海部」を舞台として

＊「歴史的建造物」や「港の風景」など、開港都市としての資源を生かしながら

＊「文化芸術」に代表される「創造的な活動」の積極的な誘導により、「国際的な観光交流拠点」の形成や「創造的な産業」の集積を進める。

＊まちの魅力を高め、都市の活性化・横浜経済の発展を図り、市民が豊かな都市文化を構築し享受する

＊世界に発信できる地域として重点的に整備を進める構想である。



それは

＊ウォーターフロントエリアの６つの拠点地区の整備促進

＊既存都心部を中心に展開する「創造界隈」の形成

＊それらを連携する陸域、水域のネットワーク形成

から構成される。

1　ナショナルアートパーク構想

（1） ナショナルアートパーク構想の位置づけ

平成１６年１月の「文化芸術・観光振興による都心部活性化検討委員会」提言において、横浜市の今後の重要な都市政策として、『文化芸術創造都市―クリエイティブシティ・ヨコハマ』という考え方が提示された。これは、「文化芸術」という創造性を牽引力としながら、先駆的な活動、新しい産業の集積を促し、開港都市としての歴史や文化等の地域資源を生かしつつ、横浜らしい個性あふれる都市づくりを推進するものである。

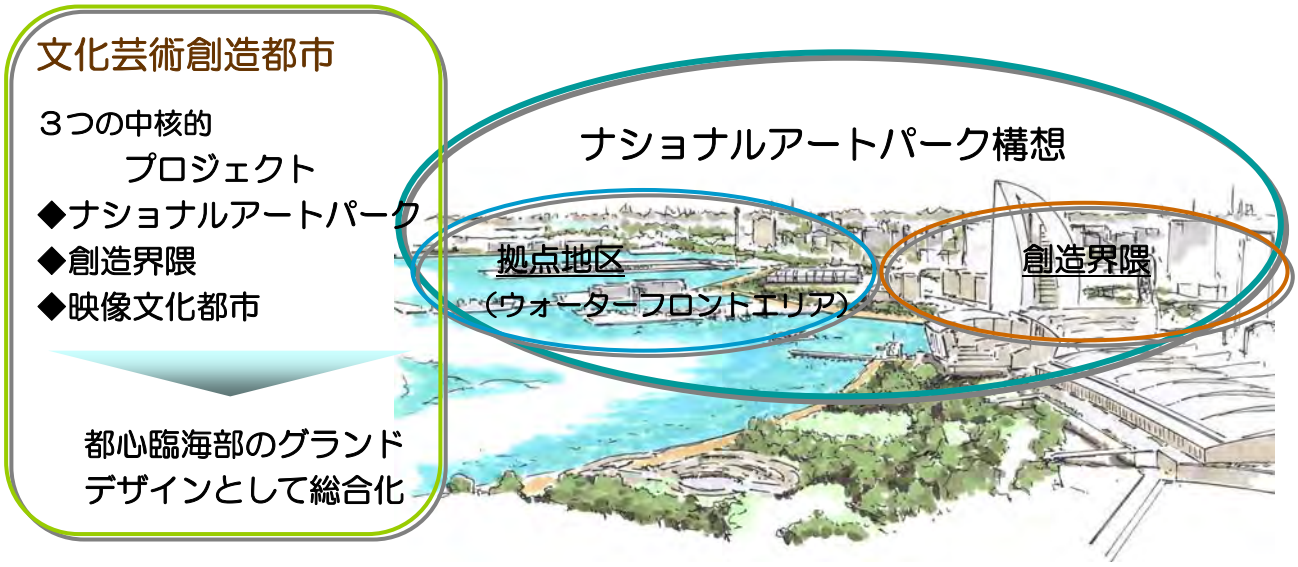
そして、その推進のための中核的なプロジェクトとして、・ナショナルアートパーク　・創造界隈・映像文化都市が提案されている。

本委員会の検討は、上記の基本的な考え方を受けてその具体的な展開の姿を描くものであるが、もとよりこれらのプロジェクトは相互に関連しており、検討にあたっては、以下のような枠組みを設定している。

ナショナルアートパーク構想とは、全体の創造都市像を牽引するため、横浜の中核的エリアである都心臨海部を舞台にして、創造性にあふれた活動の展開、施設の集積、街づくりを総合的に推進するプロジェクトとして、横浜市が進める『文化芸術創造都市―クリエイティブシティ・ヨコハマ』形成の舞台を整えるための構想である。

その具体的な展開の場として、主としてウォーターフロントエリアにおける「拠点地区」と既存都心部における「創造界隈」を想定し、それらを連携するネットワークを構築する。また、別途検討が行われている「映像文化都市」推進に関わる検討成果の具体的な実践の場としてこのエリアを設定する。

すなわち、「ナショナルアートパーク構想」は、「文化芸術創造都市」形成に向けての中核的なプロジェクトを包含した、横浜都心臨海部のグランドデザインである。と同時に、当面開港 150 周年に向けて市民の意識を高揚する戦略プランの一つでもある。



（＊）ナショナルアートパーク構想は、一般的な公園や緑地といった限定されたエリアを対象とする取り組みではなく、公園や道路などのオープンスペースに加え、創造的な活動の場としての建物、通り等すべての都市空間を含むものであり、横浜を代表する界隈の形成を目指すものである。

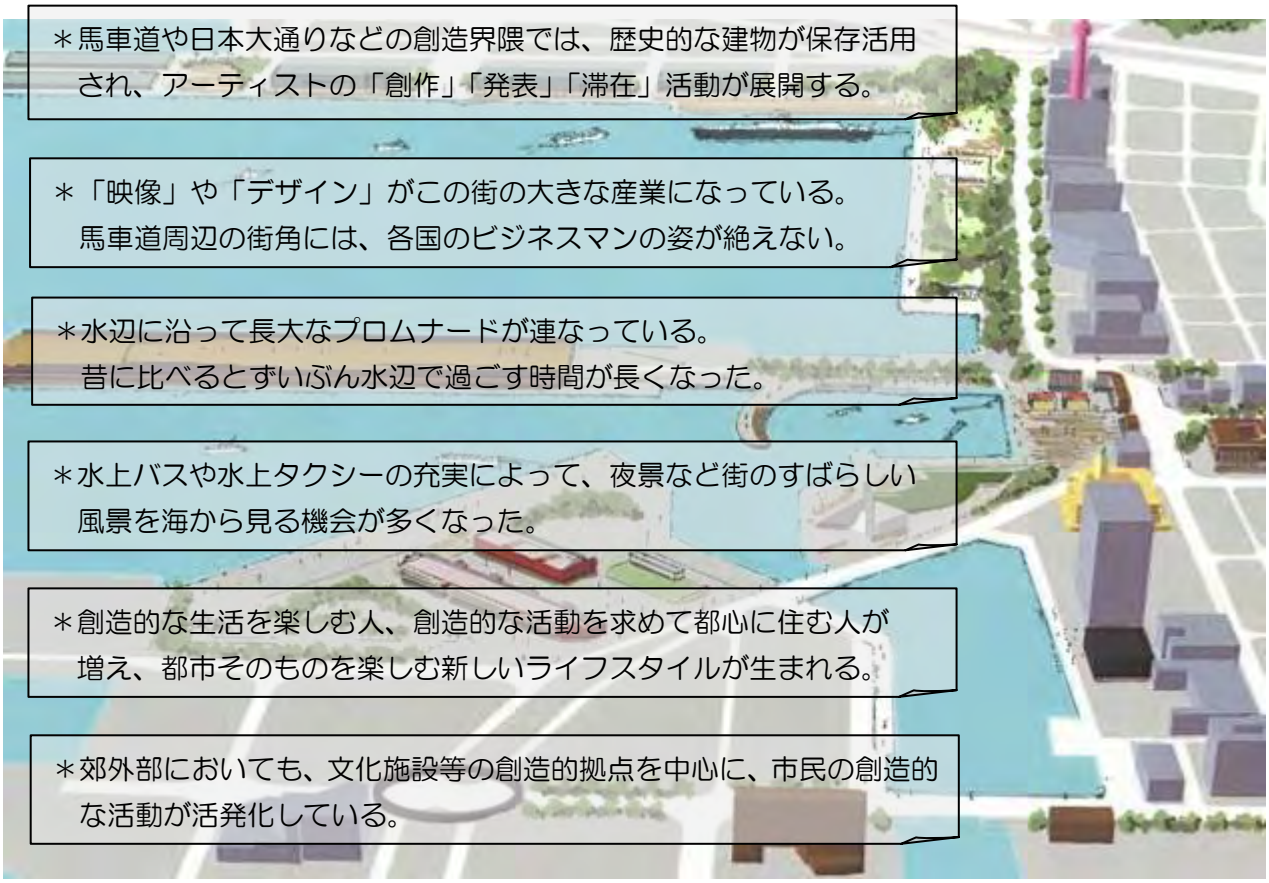
（2）目標とする都市像

ナショナルアートパーク構想を推進することによって達成される『文化芸術創造都市・横浜』の都市像は、以下のようにイメージされる。

◆目標とする創造都市像：開港のシンボルとなるエリアを囲んで、ウォーターフロントの回遊、創造的活動への参加、国際観光交流、ビジネス等、活気に満ちた市民活動が展開

＊象の鼻地区が新たな拠点となり、山下地区やみなとみらい地区、中華街・元町への回遊が増え、国際的な観光・交流スポットができた。

＊この街はいつもアートな催し物が行われている。
世界水準の演劇や展覧会にいつでも出会えるのはこの街の自慢だ。



＊馬車道や日本大通りなどの創造界隈では、歴史的な建物が保存活用され、アーティストの「創作」「発表」「滞在」活動が展開する。

＊「映像」や「デザイン」がこの街の大きな産業になっている。
馬車道周辺の街角には、各国のビジネスマンの姿が絶えない。

＊水辺に沿って長大なプロムナードが連なっている。
昔に比べるとずいぶん水辺で過ごす時間が長くなった。

＊水上バスや水上タクシーの充実によって、夜景など街のすばらしい風景を海から見る機会が多くなった。

＊創造的な生活を楽しむ人、創造的な活動を求めて都心に住む人が増え、都市そのものを楽しむ新しいライフスタイルが生まれる。

＊郊外部においても、文化施設等の創造的拠点を中心に、市民の創造的な活動が活発化している。

横浜スタイルとなる市民生活の豊かさの実現

市民が誇りうる横浜の個性・都市としての存在感

（３）取り組みの考え方

構想の推進に当たっては、以下のような考え方を踏まえた取り組みを設定している。

１）ナショナルプロジェクトとしての位置づけ

開港以来世界との窓口としての役割を果たしてきた横浜は、開港１５０周年を契機に、新たな国際競争力を強化するため、羽田空港の国際化やサミットの誘致などの事業を展開することとしている。そこで、文化芸術創造都市づくりにおいても、文化芸術と観光交流の国際的な拠点を目指し、他の事業と連携しながら、「横浜らしさ」を生み出し、世界に発信できるまちづくりを推進する。

特に、ウォーターフロントエリアにおいては、「ナショナル」アートパークであることの意味を考慮し、日本に拘った、日本の創造力に依拠した世界発信を目指すとともに、「ナショナル」プロジェクトとしての位置づけを持って、国の積極的な参画を促す。具体的には、国有地の有効活用、制度等の柔軟な運用、国立施設等の導入の可能性検討等である。

２）横浜が目指す創造都市への取り組み

ＥＵ諸国で都市再生の効果的な手法として「創造都市」の考え方が実践されており、また東アジアでは韓国や中国、シンガポール等国策として施策が進められ、都市間競争が始まっている。日本国内でも最近ではその考え方が取り入れられ、大阪や金沢でも「創造都市」形成に向けた検討が始まっている。

こうした状況を踏まえ、横浜では、ＥＵ諸国の事例を手掛かりにし、創造都市形成を目指す都市と交流を持ちながら、都市間競争を高める新たな横浜ブランドの発信という視点で、国内では初の本格的な創造都市形成に向けた、横浜独自の取り組みを行う。

（ア）多様な分野の文化芸術を行う人々が交流･連携することにより、既存分野を超えた新たな創造領域を生み出す。

（イ）コンテンツ産業等の創造的産業の集積と、アーティスト・クリエーターの集積による相乗効果により、産業と文化の両面で新たな活力を生み出す。

（ウ）国内では初の、文化芸術と産業や観光、まちづくりなどが連携した取り組みを推進する。

３）推進の仕組み

① 市、県、国、企業、ＮＰＯそして市民が、それぞれの立場からアーティストやクリエーターの活動と連携し、主体的に参加する仕組みを形成する。

② 事業等を進めるにあたり、従来の枠組みにとらわれることなく、先導的な制度の活用や、柔軟な運用を行うことによって、新たな価値を生み出す仕組みを検討する。事業等が効果的に展開するために、積極的にインセンティブの導入を図る。

③ 構想を推進するための権限、能力等を持ち自立的に機能する組織として、（仮称）クリエイティブシティ横浜を民間主体で設立する。

（4）戦略的な目標

① 横浜の個性を生かした**世界水準の文化芸術活動の創造・発信**を行う

＊ 横浜から世界、特にアジアに向けた文化芸術活動の発信拠点を形成する。横浜トリエンナーレをはじめとする世界的な多様なイベントなど、芸術分野での世界発信を通じて、都市横浜を世界にアピールする。
市民に質の高い文化芸術活動に参加する機会を提供するとともに、一方で市民は、アートファンド等を通じて主体的に文化芸術の育成に参加する。

＊ アーティスト等の創作、発表、滞在居住の場を整備する。アーティストが活動する場が界隈として形成され、個性豊かな界隈の活動がさらに多くのアーティストを集め、都市の活力、魅力の源泉となり、市民や観光客を惹きつける。

＊ 象の鼻地区を中心とした、赤レンガ倉庫から大さん橋にいたるエリアを、活動発信の拠点と位置づけ、積極的な整備を行う。

② 横浜経済のこれからを担う**創造的産業の集積（クラスター形成）**を図る

＊ 文化芸術に代表される創造的分野の人材を育成する大学等の教育機能を充実する。東京芸術大学等の活動、人材育成の成果を創造的産業集積に繋げ、横浜経済の新たな活力とする。

＊ 歴史的建築物や倉庫等の地域資源を活用しながら、横浜のこれからを担う映像、メディア、デザイン等の創造的産業を積極的に誘致、そのための助成等を行う。その中で、羽田空港の国際化を視野に入れたアジア諸国との連携戦略によって、横浜が創造産業ハブの地位を獲得することを目指す。

＊ 特に臨海部においては、将来的な土地利用転換の方向性を見据えつつ、倉庫等のコンバージョンにより、新たな産業拠点の集積を促進する。山下ふ頭での「スタジオ・コンプレックス」の形成等、横浜の新たな都市の魅力を生み出す。

③ 魅力的な**都心臨海部の環境形成**と**国際的な観光交流拠点**を目指す

＊ みなと発祥の地の土木遺構や歴史的建築物等の保存活用を通じて、歴史の蓄積による深みを持った都市の魅力をアピールする。

＊ 横浜の個性である都心臨海部の魅力を最大限に発揮するために、水際線を憩いの水辺として市民に還元し、臨海部のプロムナード整備や、水上交通ネットワークを構築することによって、快適で便利な回遊環境を形成する。

＊ 水域からこの街を見る機会が増え、港町としての個性が強調される。既存の観光資源との連携を強化して、都市観光の総合力を高める。

２　構想の組立と推進の方向性

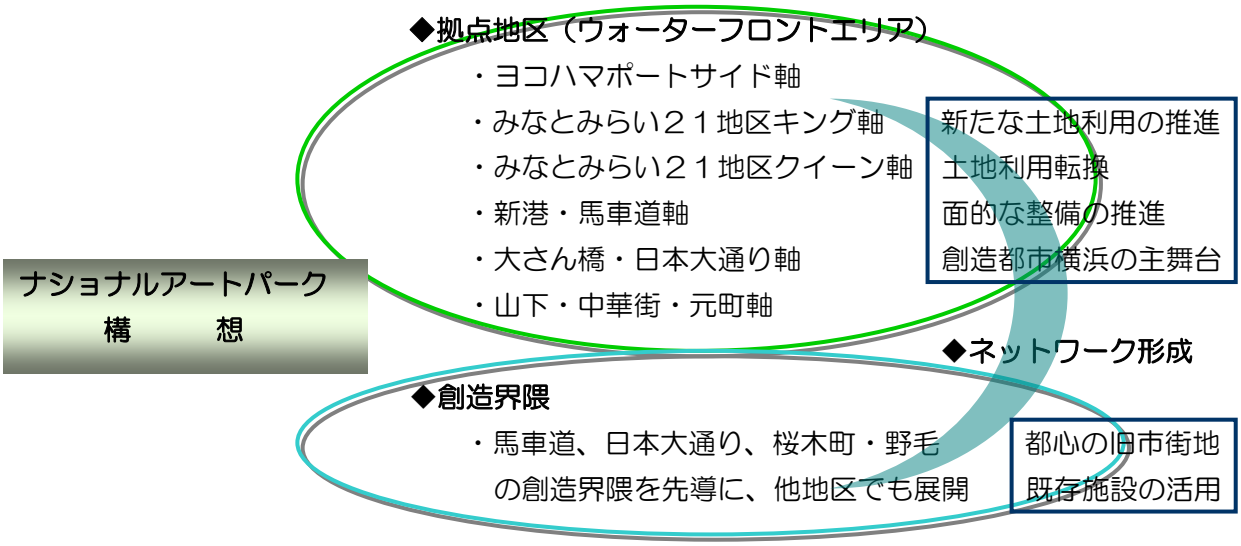
（１）対象エリア

世界にヨコハマの存在をアピールする「文化芸術創造都市・横浜」の実現のため、その舞台となるナショナルアートパークエリアを横浜の顔とも言うべき都心臨海部において設定する。すなわち、本構想の対象エリアは、横浜都心臨海部ーみなとみらい２１地区（ポートサイド地区を含む）から山下ふ頭までを中心としたエリアである。

その中で、特に活動を集約的に展開していくために、戦略的に取り組む６つの拠点地区を設定し、新たな土地利用や港湾機能の動向を踏まえた土地利用転換等により、創造空間を形成する。

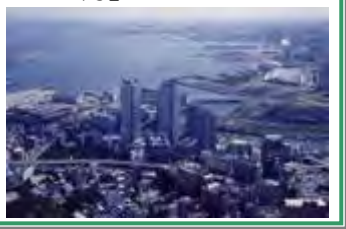
併せて、都心の旧市街地エリアにおいて、歴史的建築物等の地域資源を活用し、アーティスト等が様々な文化芸術活動を行う一定の領域感をもったエリアを形成することにより、地域の活性化を目指す『創造界隈』を誘導する。

また、ナショナルアートパークエリアを貫き、各地区を連絡し、活動を支える基盤としてのネットワークを構築する。



◆６つの拠点地区

①ヨコハマポートサイド軸
『アート＆デザインの街』



②みなとみらい２１地区
キング軸
『エンターテイメント』

③みなとみらい２１地区
クイーン軸
『連携』

④新港・馬車道軸
『創作・発表
滞在居住の三位一体』

⑤大さん橋・日本大通り軸
『時の港』

⑥山下・中華街・元町軸
『スタジオ・
コンプレックス』

◆創造界隈

「馬車道創造界隈」「日本大通り創造界隈」「桜木町･野毛創造界隈」を先導にその他の地区に展開

◆ネットワーク形成

①内陸部のネットワーク：
既存の公共交通機関（みなとみらい線など）
歩行者ネットワーク

②水辺・水域ネットワーク：
ウォーターフロントプロムナードの整備や
水上交通ネットワーク

（２）　６つの拠点地区

世界にヨコハマの存在をアピールする文化芸術創造都市の実現のため、その象徴的な舞台となるナショナルアートパークエリアを「横浜の顔」とも言うべき都心臨海部－ヨコハマポートサイド地区から山下ふ頭までを中心にしたエリアーにおいて設定する。

横浜都心臨海部の市街地構造は、水際線に沿った３つのヨコ軸（ウォーターフロント、みなとみらい線、ＪＲ根岸線）と、内陸部から水際に向かう６つのタテ軸とによって織り成される網の目の構造として理解される。この６つのタテ軸に着目し、その中でも、特に活動を集約的に展開し、戦略的に整備を行う地区を６つの拠点地区として設定し、創造性に着目した事業を面的に展開することにより、横浜を代表するエリアを形成する。

また、この６つの拠点地区の中で、みなとみらい２１地区から山下ふ頭を結ぶウォーターフロント軸は、公共用地や公共施設の集積するゾーンであり、１５０周年記念事業の主な対象区域に想定されていることから、先導的な創造都市形成に向けた取り組みを進める。

それぞれの地区の整備の方向性は以下のように整理される。

◆ヨコハマポートサイド軸

【現況】「アート＆デザインの街」のテーマの元に、都心型住宅を中心にした地区整備が展開中。その中で、ギャラリー、デザインショップ等の立地が進むが、街の賑わいに乏しい。

【構想推進の方向性】地区の街づくりが最終章を迎えつつある中で、残された街区の開発において、積極的に「アート＆デザイン」の施設整備、活動の導入を図るとともに、既存施設の活用の活性化を図る。

⇒特に水際ゾーンの街区で市有地の有効活用等により、教育機関やアーティスト等の制作・発表、市民との交流空間、多くの若者が集い街に賑わいと活気を与える空間の整備を推進。

⇒既存施設の有効活用により、地域コミュニティを醸成する仕組をつくる。

◆みなとみらい２１地区・キング軸

【現況】横浜駅に近接しているポテンシャルを生かして、暫定的なエンターテイメント施設が立地。また、高島地区においては、スポーツ施設の整備が進む。

【構想推進の方向性】エンターテイメント拠点として積極的に関連企業の集積を誘導する。

⇒エンターテイメント拠点としてのキング軸の整備を牽引する拠点施設の誘導。

◆みなとみらい 21 地区・クイーン軸

【現況】桜木町駅からパシフィコ横浜へ至る活動軸として、商業・業務・文化機能が複合したモールを形成している。空間整備は概ね完了している。

【構想推進の方向性】既存の文化施設群の連携推進。日常的連携、催事的連携。

⇒クイーン軸を形成する各ホール群、ギャラリー群の連携。

⇒パブリックアートの展示やストリートアーティストの活動により魅力を拡大。

◆新港・馬車道軸

【現況】歴史的建築物等を活用した文化芸術の創造・発信活動が始動している。今後は北仲通地区における大規模な再開発事業が進み、また、新港地区では、映像文化施設整備が進められている。

【構想推進の方向性】ＮＰＯ等によるアート発信拠点、文化観光交流拠点、映像系産業をはじめとした創造的産業の集積を図る。また、北仲通地区の再開発においては、地区の歴史的建築物を活用しつつ、デザインセンターの導入を誘導する。

新港地区においても、国有地等の有効活用により、国立施設を含めた文化芸術施設の立地促進を図る。

◆大さん橋・日本大通り軸

【現況】横浜港発祥の土木遺構や歴史的建築物が多く残され、また、大さん橋国際客船ターミナルや赤レンガ倉庫等のシンボリックな施設が立地する。

【構想推進の方向性】横浜の歴史と未来を結ぶ象徴的な空間整備が望まれる。みなとみらい地区と中華街・元町等を結ぶ場であり、横浜の文化観光交流の要として「創造都市」を象徴する、魅力的な空間・活動の整備を行う。

⇒歴史的みなと空間の復元活用、水辺の賑わい空間、文化芸術活動の発信拠点。

◆山下・中華街・元町軸

【現況】山下ふ頭では、先端の上屋を利用して、横浜トリエンナーレの第２回展が開催された。

【構想推進の方向性】横浜を代表する観光地である中華街や元町などからのアクセスを強化し、大さん橋、山下公園と連なり港を囲む倉庫のある風景を生かした魅力ある交流空間を形成することにより、一大観光交流拠点を形成する。また、既存の倉庫の転用により、その空間特性を生かした創造的産業の集積を目指す。

（3）　創造界隈

都心の旧市街地の一定の領域感をもったエリアに、密度濃く活動が展開される界隈が形成される。その立地特性に応じて、様々な内容、形態を持つ。

1）「創造界隈」の形成

「創造界隈」とは、歴史的建築物や倉庫などを活用して創造的な活動を発信する拠点施設を中心に、アーティストやクリエーターが創作、発表し、居住・滞在する一定の領域感を持ったエリアを意味するもので、民間主導で事業を展開する。

2）「創造界隈」の機能および集積の効果

「創造界隈」においては、右図に示すような機能が相互に関連しつつ集積効果を実現する。

① 多様な機能がまとまったエリアに密度濃く集積するため、活動に便利であり、有能な人材が集まる。

② 質の高い活動が集約するという地区イメージが高まり、更なる人材、企業、店舗等が集積する。

③ 交流の機会から、新たなビジネスが生まれる。

④ ワークショップや共同制作を通じて、市民とアーティストの交流が図られ、市民の創造的活動が促進される。

3）「創造界隈」の展開

「創造界隈」は、一定のまとまりを持ったエリアに、密度濃く活動が集約される空間を想定しており、既存市街地においても、ある程度限定された場に形成されるものと考えられる。

ただし、「創造界隈」の活動を支援する、ないしは補完する特定の機能については、都心外延部においても適切な拠点を整備することによって、充分にその役割を果たすことができると考えられる。

「馬車道創造界隈」を先駆けに、「日本大通り創造界隈」「桜木町・野毛創造界隈」を先導的に形成し、その他のエリアにおいても、地区の特性を生かしつつ、新たな「創造界隈」の形成を目指す。

◆馬車道創造界隈　（後述：２２ページ）

◆日本大通り創造界隈

横浜を代表するブールバール（大通り）である日本大通りに沿って、多くの歴史的建築物が立地し、それらの多くはミュージアム等に利用されている。それらの集積に加え、新たに旧関東財務局の建物を文化芸術活動の拠点として再整備することによって、「界隈」としての集積度を高め、象の鼻地区へ続く魅力的な街並みを生かした賑わいのある創造界隈を形成する。また、通りの空間そのものも、活動の主要な舞台として考える。

①旧関東財務局の活用　【市・民間（公設民営）】

・開港 150 周年を目処とする本格整備までの間、現在の事務所仕様を生かし、創造活動を行う芸術活動団体の育成拠点とする

②既存のミュージアム施設群の連携　【市・民間】

・既存の開港資料館、都市発展記念館、ユーラシア文化館、情報文化センター等の文化施設の連携

③日本大通りの道路空間活用　【市・県・民間】

・豊かな歩道空間を活用して、オープンカフェ等の利用を推進する

◆桜木町・野毛創造界隈

①旧老松会館の活用　【市・民間（公設民営）】

・横浜を拠点とする舞台芸術をはじめとした芸術創造活動の練習・創作拠点として活用。

⇒ワークショップ等を通じてアーティストと市民の交流の場とする

②東横線跡地の活用『東横線アートウォーク』（後述）

③既存文化施設との連携　【市・県・民間】

・周辺に立地している文化施設との連携を図る

⇒青少年センター、県立音楽堂、横浜にぎわい座等

◆外延部への広がり

①アーティスト等の創作・居住環境の整備【民間・市の支援】

・アーティストが滞在・居住するエリアとしての環境を整える

⇒国内外のアーティストが長期滞在して制作する宿泊可能な活動拠点

関外地区や戸部地区など、都心外延部を中心に、滞在型２４時間スタジオ、アーティストに低廉な居住の場を提供

⇒交流空間の充実

アーティスト同士の交流共同制作等の活動空間

アーティストとクライアントの交流によるビジネスチャンスの多様化

（4）　ネットワーク

ナショナルアートパークエリアを貫く、２つのネットワークを形成する。

１）内陸部のネットワーク

◆構想推進の方向性

『都心を貫く活動軸の形成』

～みなとみらい線・開港の道・アートウォークの連携～

整備イメージ

⇒みなとみらい線の開通が横浜都心部の活動に与えた大きなインパクトを生かす

⇒既存の都心部のプロムナードと連携して新たな歩行者のネットワークを形成

★具体的な取り組み

①東横線跡地の活用『東横線アートウォーク』　【市・民間（公設民営）】

・東横線跡地を活用し、横浜都心部を貫き、横浜駅から桜木町駅を経由し、既設の「開港の道」をはじめ、関内、関外のプロムナード、歩行者空間とのネットワークを形成することによって、回遊性を高め、都心部における長大な歩行者軸を形成する。

・以下のような方針に沿って、空間整備、機能導入を検討する。

⇒上部は、鉄道の記憶を残したプロムナードとして整備

リニアな空間特性ならではの機能の導入

⇒高架下については、暫定的には展示等のイベントスペースとして活用。

⇒将来は、駅空間を含めて、アーティストの創作空間として整備

東横線廃線跡地プロムナード（アートウォーク）

開港の道（汽車道）

水際線プロムナード（既存）

２）水辺・水域のネットワーク

◆構想推進の方向性

『水辺・水域ネットワーク』

～人々の活動空間としての水辺・水域～

整備イメージ

⇒水辺が市民のアクセス空間となる

⇒水際線の長大なプロムナードが形成される

⇒水域を利用して都心臨海部や東京湾内を結ぶネットワークが形成される

⇒水域からこの街の景観を見る機会が増える

⇒１５０周年を契機として、ウォーターフロント軸の緑地や公共空間が、様々な創造的活用により賑わいを見せている。

★具体的な取り組み

①水辺のプロムナード形成

【市・県・国・民間】

・原則として水辺を市民に開放し、自由なアクセスが可能な空間として整備。

⇒既に整備されているものも含めて水際線のプロムナードを連続する

②ウォーターフロントの拠点を結ぶ水上交通のネットワーク形成

【民間主体・公共支援】

・既存の水上バス等に加え、新たな交通手段の可能性検討

⇒水上タクシーの導入検討

・拠点となるエリアにおいて、係留施設の整備検討

⇒象の鼻地区における水上交通ターミナルの整備検討

【参考】　右図：横浜港港湾計画資料

③水域の市民活用推進

・カッターレースなど市民が港に親しむ機会を拡大

・文化芸術活動の場として活用を検討

④ウォーターフロント軸の形成

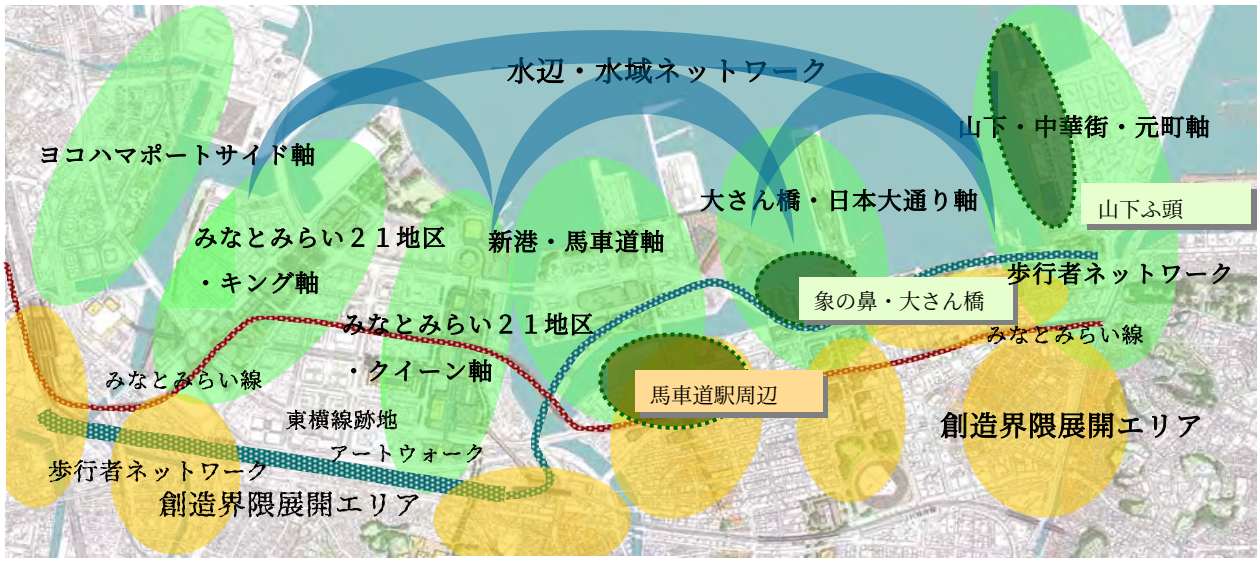
・みなとみらい２１地区臨海部から山下ふ頭を結ぶウォーターフロント軸は、公共用地や公共施設の集積するゾーンであり、１５０周年記念事業の主な対象区域に想定されていることから、既存施設や公共用地を積極的に活用し、先導的な創造都市形成に向けた取り組みを進める。

Ⅱ　具体的な取り組み

６つの拠点地区の中で、特に具体的な動きがあり、先導的に整備を推進すべき３つの地区において、開港１５０周年（２００９年）を目処に重点的な取り組みを行う。

また、その他の拠点地区においても、その具体的な動きにあわせて、重点的な取り組みを行う。

また、クリエイティブシティの取り組みを推進する組織を民間主体で設立する。



拠点地区（ウォーターフロントエリア）　創造界隈展開エリア　ネットワーク形成　具体的な取り組み

◆象の鼻・大さん橋

横浜港発祥の地である「象の鼻」を中心に、赤レンガ倉庫、大さん橋によって形成されるエリア一帯を、横浜を代表する国際的な文化観光交流拠点として整備推進。

開港１５０周年を契機に、歴史的みなと空間を復元・活用し水辺の賑わい空間を形成するとともに、文化芸術活動を発信する拠点を形成する。

◆山下ふ頭

物流機能の動向を踏まえつつ段階的に多様な用途への転換を想定する地区。

特に、ふ頭西側において、倉庫の空間的特性を生かしたスタジオ機能等の集積を核とした、賑わいのある地区への転換を行う。

◆馬車道駅周辺

「創造界隈」形成の先導的地区として位置づける。エリアに存在する地域資源を活用し、核となる施設の整備や、アート発信拠点の拡充、創造的産業の集積を促進し、界隈としての発信性を高める。

3　象の鼻・大さん橋

象の鼻地区を中心に、象の鼻防波堤および内水面を囲む、大さん橋、赤レンガパークを含むエリア一帯を、横浜を代表する国際的な文化観光交流エリアの一つとして捉え、歴史性を生かした水辺空間を整備するとともに、積極的に創造的な機能の集積を図る。

『時の港』　～横浜の歴史と未来をつなぐ象徴的な空間～

＜象の鼻を囲むウォーターフロントエリアに
開港１５０周年を契機として賑わいの輪が形成される＞

◆構想推進の方向性

①開国を象徴する歴史的資産や水辺を活用し、賑わいのある観光交流拠点を形成

・水辺空間や水域で憩う人、文化芸術を楽しむ人など、常に様々な人が行き交い交流する

②象の鼻を囲むエリアで創造的活動が展開され、世界に発信する拠点を形成

・大さん橋や赤レンガ倉庫等、象の鼻を囲むエリアに文化芸術発信拠点を集積させる

◆取り組み内容

①歴史的なみなと空間の復元・活用

②世界水準の文化芸術活動を発信する拠点の形成

③開港を記念する広場を中心に、歴史を偲び水辺でくつろぐ場の整備

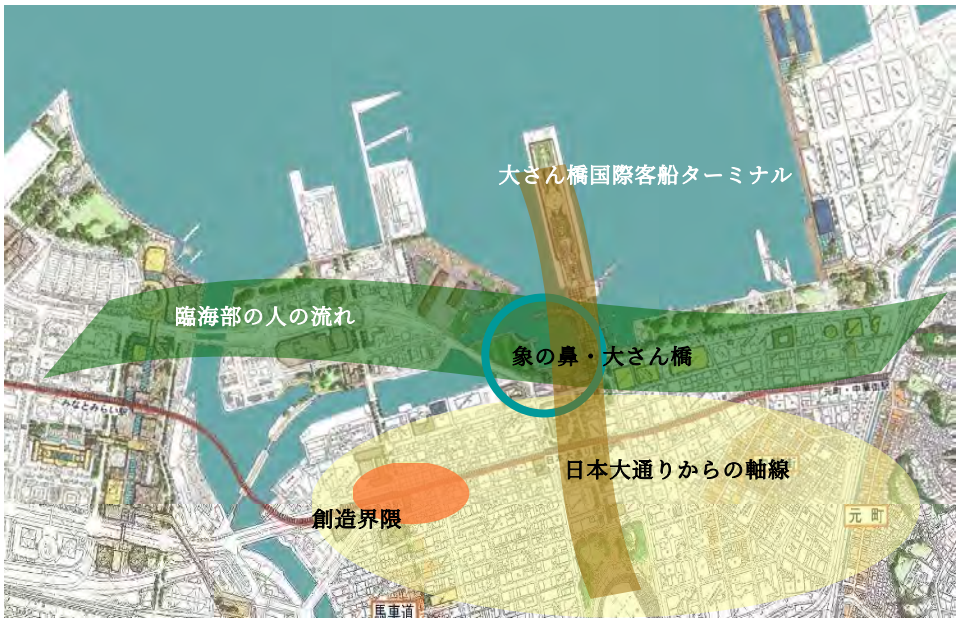
④水上交通ターミナルの形成

（１）立地特性

象の鼻・大さん橋は、横浜港発祥の地としての歴史性を持つ地区である。

安政６年（１８５９）の横浜開港以降の横浜港の発展をたどる歴史的遺構がほぼ現在に伝えられており、その歴史的価値は高い。

また、ここから内陸に伸びる日本大通りは、横浜の都市形成の基軸となった通りであり、道路と周辺の歴史的建築物等が一体となった、風格ある都市景観を形成している。



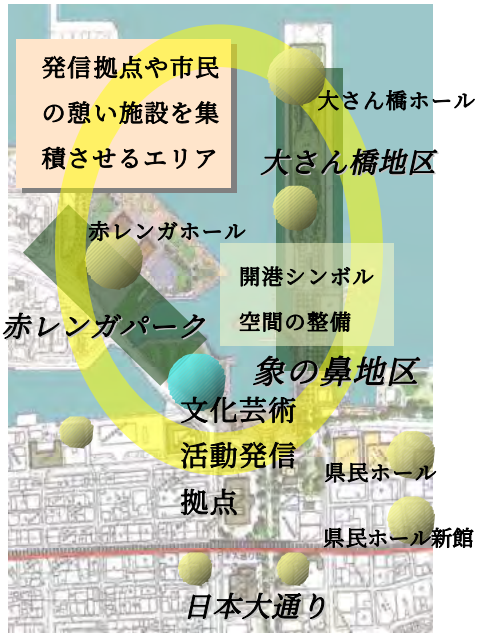
隣接して、大さん橋国際客船ターミナルや赤レンガ倉庫等の横浜を代表する魅力的な施設が立地している。

（２）構想推進の方向性

象の鼻地区を中心に大さん橋、赤レンガパークによって形成される水域を囲んだＶ字型のエリアは、一定の領域感を持った空間として意識され、横浜を代表する国際的な文化観光交流エリアの一つであるため、ナショナルアートパーク構想のリーディングプロジェクトとして、整備を進める。

地区は都心臨海部にあっても市民が海・港と直接的に向きき合うことができる傑出した環境を持つ地区であり、開国を象徴するその優れた立地環境を生かして、水辺の賑わい空間として整備する。

また、象の鼻地区に、周辺の既存施設等と連携した多彩な活動を集積することによって、横浜から世界に向けて文化芸術など創造的活動を発信する拠点を形成する。

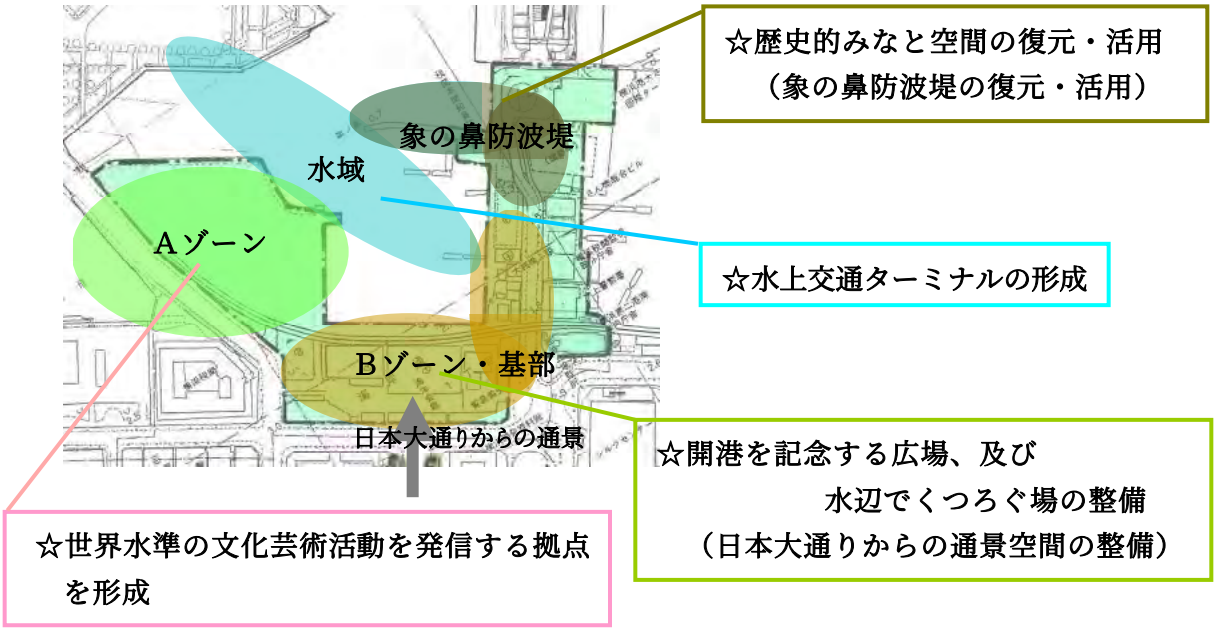


＜象の鼻を囲むウォーターフロントエリアに
開港１５０周年を契機として賑わいの輪が形成される＞

① 開国を象徴する歴史的資産や水辺を活用し、賑わいのある観光交流拠点を形成
水辺空間で憩う人、文化芸術を楽しむ人など、常に様々な人が行き交い交流する。

② 象の鼻を囲むエリアで創造的活動が展開され、世界に発信する拠点を形成
大さん橋や赤レンガ倉庫等、象の鼻を囲むエリアに文化芸術発信拠点を集積させる。

◆象の鼻地区のゾーニングと整備の方向性



（３）取り組み内容

① 歴史的みなと空間の復元・活用　【市・国】

・象の鼻防波堤および水域を囲むかつてのみなとの景観を復元し、横浜の発祥の地としてのシンボル空間とする

・市民が散策し水辺に親しむ空間として整備する

② 世界水準の文化芸術活動を発信する拠点の形成　（Ａゾーン）　【市・国・民間】

・横浜から世界に向けて、文化芸術などの創造的活動を発信する拠点を形成する。

◆拠点のイメージ

・港と広場が一体となった、象徴的で開かれた空間とし、市民が交流し、多くの観光客が訪れる。

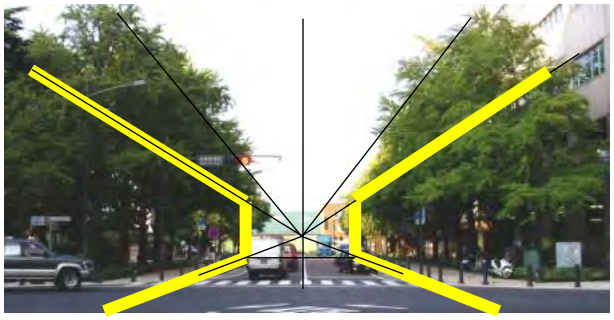
・他都市には類のない水域を含んだ開港の地としての魅力が、芸術家の創作意欲をかきたてる。

③ 開港を記念する広場を中心に、歴史を偲び水辺でくつろぐ場の整備　（Ｂゾーン・基部）【市・国・民間】

・日本大通りから海へつながる通景空間の整備

・カフェ、レストランやアトリエ等、水辺で市民が交流し、時を過ごせる場を形成

・歴史的建築物の保存活用、統一感のある街並みを継承する外観保存



④水上交通ターミナルの形成　【民間主体・公共支援】

・港を抱える横浜都心部の特性を反映して、水域において各拠点を連絡する水上交通のネットワーク形成を図る。

・現在のシーバスの運行に加えて、水上タクシーの運行等新たな交通ネットワークの導入を検討し、ナショナルアートパークエリア内の回遊性を高める。

・象の鼻地区と各拠点地区を結ぶ水上交通の発着のための場を整備する。

・また、水域を文化芸術の表現活動等の様々な活用の場とする。

◆事業スケジュールの想定

２００９年まで	２００９年以降
◇歴史的みなと空間の復元・活用（象の鼻防波堤） ◇文化芸術活動発信拠点の形成 ◇開港を記念する広場・水辺空間の整備(通景空間確保)	文化観光交流拠点形成

４　山下ふ頭

山下ふ頭は、物流機能の動向を踏まえつつ段階的に多様な用途への転換を想定していく地区である。その先導的な取り組みとして、ふ頭西側にて、横浜トリエンナーレの２回展の成果を踏まえながら、倉庫の空間的特性を生かし、スタジオ機能などを持つ創造的産業の集積を核とした賑わいある地区への転換を行う。

『スタジオ・コンプレックス』

～倉庫の空間性を生かした機能への転換～

＜水辺に接し、横浜トリエンナーレの会場となったふ頭西側から段階的に転換を促す＞

◆構想推進の方向性

①倉庫の空間的特性を生かしたスタジオなどの集積した創造的産業拠点を形成

②横浜を代表する優れた水辺景観と、山下公園等観光エリアに近接する地域特性を生かした魅力ある交流空間を形成

◆取り組み内容

①倉庫の転用活用による創造的産業の誘致、立地支援

②法制度等の柔軟な運用の検討

③横浜トリエンナーレの継続的開催の検討

（１）立地特性

山下ふ頭は山下公園に隣接し、都心臨海部を東側から包むような立地にある。ふ頭からは、みなとみらい地区や大さん橋など、横浜を代表する景観が眺望でき、将来の都心部の産業や観光にとって貴重な資源である。

山下ふ頭は、岸壁等で取り扱う貨物量は減少しているが、一方で、本牧ふ頭や大黒ふ頭あるいは内陸経由の貨物の中継基地としての性格を強めている。

（２）構想推進の方向性

＜水辺に接し、横浜トリエンナーレの会場となったふ頭西側から徐々に転換を促す＞

①倉庫の空間的特性を生かしたスタジオなどの集積した創造的産業拠点を形成する。

倉庫を再整備し、空間の特性を生かしたスタジオや展示空間として活用することにより創造的産業の集積を目指す。

②横浜を代表する優れた水辺景観と、山下公園等観光エリアに近接する地域特性を生かした魅力ある交流空間を形成する。

優れた景観を生かし、商業・文化機能を中心に、魅力ある交流空間への転換を段階的に進める。また、横浜トリエンナーレの定点化を検討する。

（３）取り組み内容

①倉庫の転用活用による創造的産業の誘致、立地支援　【民間・市の支援】

・倉庫の空間特性を生かし、大空間が必要なスタジオ機能などへの転用等による創造的産業の誘致に必要な受け皿づくりを、市と連携を図りつつ、民間主導で行う。

⇒現在の利用状況や転用の意向把握、事業手法の検討

⇒転用に係る支援制度を検討

②法制度等の柔軟な運用の検討【市・国・民間】

・本構想の目的に沿って民間が行う倉庫等の転用活用にあたり臨港地区における建築物の用途制限などについて、柔軟な運用を検討する。

③横浜トリエンナーレの継続的開催の検討【市】

・横浜トリエンナーレ２回展の成果を見定めつつ３回展の開催地として検討する。

◆横浜トリエンナーレ第２回展

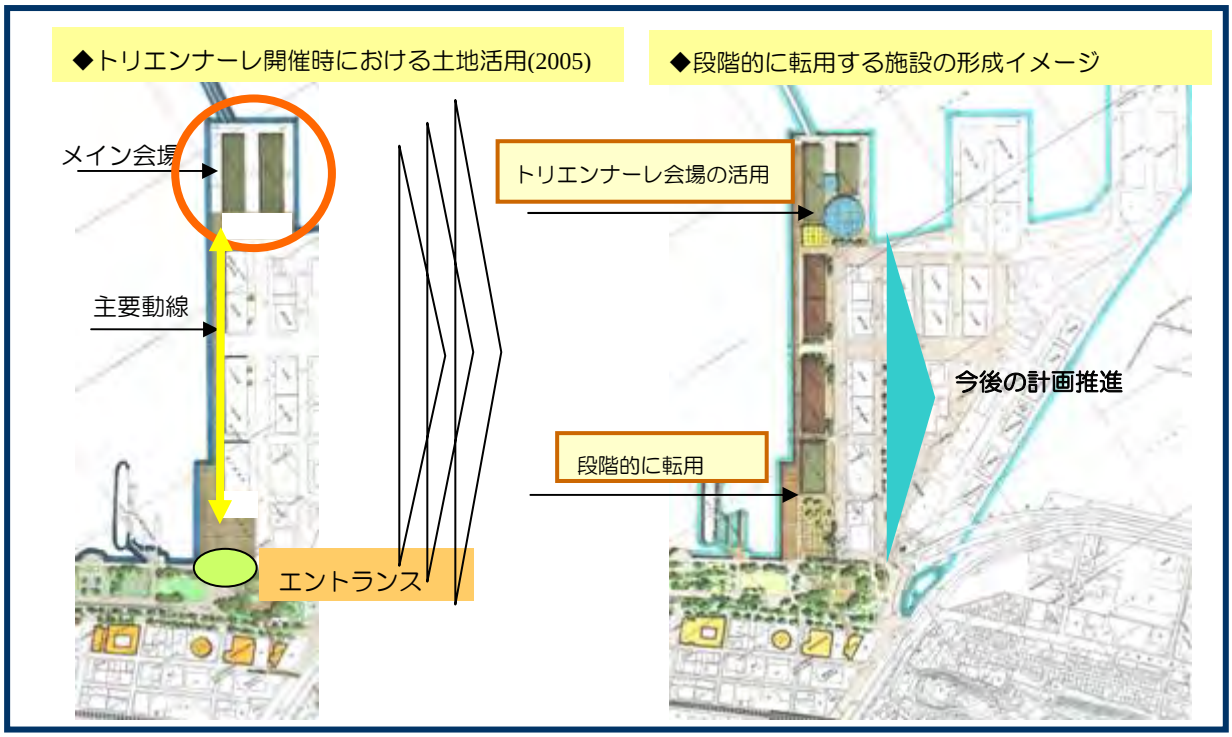
山下ふ頭３号、４号上屋を会場として使用

参加アーティスト　３０の国・地域　７１プロジェクト　８６作家

総合プロデューサー　川俣　正　　テーマ「アートサーカス（日常からの跳躍）」

総観客数　１８９，５６８人

＜図＞段階的整備のイメージ



◆事業スケジュールの想定

２００９年まで		２００９年以降
◇横浜トリエンナーレ ◇西側倉庫の転用開始（創造的産業の集積）	⇒	継続開催 段階的にエリア拡大

5　馬車道駅周辺

馬車道駅周辺エリアを「創造界隈」形成の先導地区と位置づける。「創造界隈」とは、歴史的建築物や倉庫などを活用して、創造的な活動を発信する拠点を中心に、アーティストやクリエーターが、「創作」「発表」「滞在・居住」の三位一体の活動を展開する、一定の領域感を持ったエリアを意味する。　エリアに存在する地域資源を活用し、核となる施設の整備や、アート発信拠点の拡充、創造的産業の集積を図り界隈としての発信性を高めることを目標とする。

『創造界隈』

～創作・発表・滞在居住の三位一体～

＜歴史的街並みの中に展開される
多種多様な創作活動の密度濃い集積＞

◆構想推進の方向性

①BankART1929 の実践において蓄積された活動の継承

②北仲通地区におけるデザインセンター等の核的施設と周辺への発展

◆取り組み内容

①ＮＰＯ等によるアート発信拠点の拡充　②新たな文化芸術観光拠点の整備

③映像系企業をはじめとした創造的産業の誘致　④北仲通地区デザインセンターの誘導

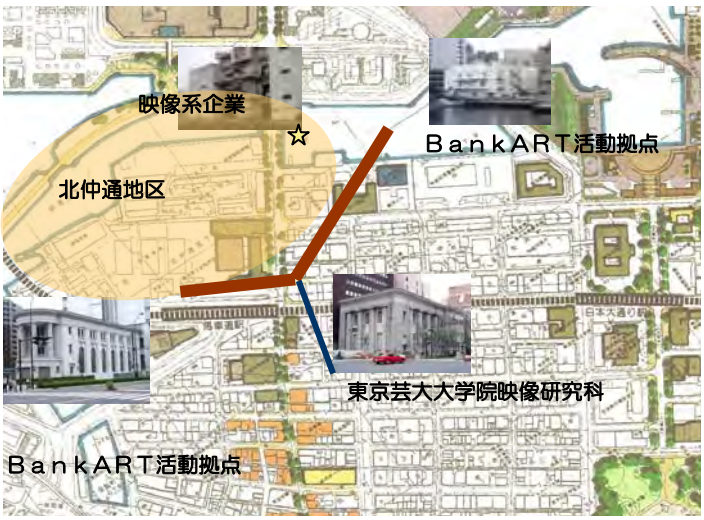
（１）立地特性

みなとみらい線馬車道駅周辺地区には、旧横浜正金銀行（現神奈川県立博物館）や旧生糸検査所（現農林水産省合同庁舎）をはじめ、旧第一銀行、旧富士銀行等の歴史的建築物が集中して立地しており、横浜の歴史的な都心の面影を色濃く残すエリアである。これらの歴史的建築物を活用した実験事業として、BankART１９２９による文化芸術活動が行われ、また、旧富士銀行の建物を活用して、東京芸術大学大学院映像研究科の活動も展開されている。さらに、北仲通地区においては、大規模な再開発事業が計画されており、その中で、歴史的建築物や倉庫を活用した核的文化芸術拠点の整備が検討されている。

（２）構想推進の方向性

歴史的建造物活用実験事業の実施や東京芸術大学の誘致等の実践を受け、特にエリアとしてまとまりを持ち、地域資源が集中して存在する**馬車道駅周辺**において、創造界隈のモデルとなる、産業集積等を誘発する創造発信拠点を核とした創造界隈を形成する。

＜歴史的街並みの中に展開される
多種多様な創作活動の密度濃い集積＞



①BankART1929 の実践において蓄積された活動の継承

②北仲通地区におけるデザインセンター等の核的施設の誘導と周辺への発展

（３）取り組み内容

①ＮＰＯ等によるアート発信拠点の拡充【民間・市の支援】

・市民、アーティストが交流するアートの発信拠点形成
⇒BankART１９２９の実践の発展的継承
（日本郵船倉庫への活動の集約）
⇒地区の歴史的建築物等の地域資源を活用して、
クリエーター等の活動拠点を形成

②新たな文化芸術観光拠点の整備　【市・民間】

・ＢａｎｋＡＲＴ1929 の実験事業の成果を踏まえ、機能を拡充した新たな発信拠点を整備する。
・新たな運営主体を導入し、新しいジャンルや企画を開拓する。
⇒旧第一銀行の活用
シンボリックな空間を活用した映像フェスティバル「創造都市」のプロモーション
⇒アートＮＰＯ、アーティスト等の活動支援

③映像系産業をはじめとした創造的産業の誘致、立地助成
【民間・市の支援】

・創造的産業の誘致や関連して派生する多様な業務ニーズに応えるための受け皿づくりを行う。
⇒核的施設としての大学誘致
⇒民間倉庫のコンバージョンにより、創造的企業の活動空間を形成　（万国橋倉庫）
⇒立地促進のため、投資に対する助成
⇒空きオフィス等のコンバージョン支援、仲介入居斡旋、情報提供等

④北仲通地区　デザインセンターの誘導　　【民間主体・市の支援】

・北仲通地区は、馬車道駅に隣接し、横浜の歴史的な都心である関内地区と新しい都心であるみなとみらい２１地区の接点に位置する。

・現在、市街地再開発事業によって整備を進めている南地区に続いて、北地区においても再開発事業により計画的な土地利用転換を行うことになっており、新たな街づくりの中で、文化芸術拠点としての役割を果たすことが期待される。

◆計画の考え方

『デザインセンター』

～再開発事業の中で、歴史的建築物を活用して、文化芸術の核施設を誘導～

☆整備方針

民間主体によって推進されている北仲通地区の再開発事業の中で、文化芸術の核的な施設として、デザインセンターの整備を誘導する。

＜基本方針＞

＊馬車道駅周辺における創造界隈形成に寄与する中核的な施設として、周辺の創造活動と連携しつつ、界隈のエリアイメージを牽引する。

＊羽田の国際化等の状況を踏まえ、アジアに焦点をあてる。

＊地区内の歴史的建築物の保存活用により、個性的な施設とする。

＊市との連携を図りつつ、基本的には民間事業として推進する。

☆期待される機能

＊人材育成機能を強化し、ここから輩出される人材が「界隈」の創造活動を担い、活動の広がりを形成する。

＊企業の最先端のショールーム機能を充実し、アジアを視野に入れた創造的産業の企業との連携を図る。

＊アジアのデザイン企業の日本進出の場としてのブランドが定着する。

◆事業スケジュールの想定

２００９年まで		２００９年以降
◇アート発信拠点の本格的事業展開・拠点拡充 ◇北仲通地区再開発事業推進　デザインセンター整備	⇨	アーティストの集積 界隈での活動が定着

６　クリエイティブシティの推進組織

ナショナルアートパーク構想を中心に、都心臨海部で展開されるクリエイティブシティを推進するため、目標の達成に向けて民間および市、県、国がそれぞれの役割を担いながら取り組みを進める。その推進組織として、平成１８年度に「(仮称）クリエイティブシティ横浜」を民間主体で設立する。

この組織では、構想を推進するために実施するプロジェクトの選定や、クリエイティブシティのシティセールス、様々な主体との連携事業を行う。企業や大学、行政等との協働により、新しい時代の公共を創造する。

「(仮称)クリエイティブシティ横浜」は、適切な人材を結集するとともに、推進のための権限を持ち、組織としての自立性を確保する。

（１）組織の設立

平成１７年度に組織の役割や業務内容の検討を行い、平成１８年度の設立を目標とする。

（２）組織形成の考え方

この組織が、ナショナルアートパーク構想の実現に向けて中心的な推進力を持つために、以下のような視点に立ってその組織化を図る。

①「文化芸術」「産業振興」「まちづくり」の幅広い分野の連携

⇒「文化芸術活動の促進」「創造的産業の育成」「まちづくりの推進」の各分野が連携しながら、事業を展開

②世界に通用する、先端的、先進的取り組みを実施

⇒多彩なネットワークを持ち、才能ある人材を惹きつけ、また経済界を動かす複数の人材を結集し、時代に対応した業務を選定

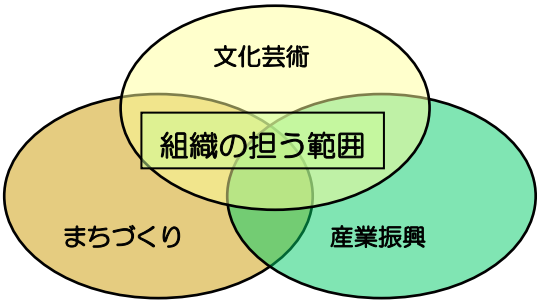
⇒大学との連携により先端的な取り組みを行うと共に、活動を支える人材を育成する

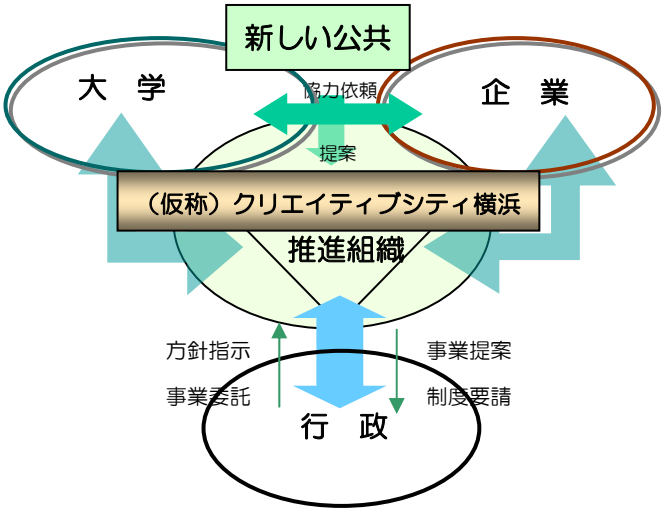
③行政推進型のまちづくりではない、民間主導型のまちづくりを推進

⇒自由な裁量、スピード、経営センスなどを生かしたまちづくりの推進

④人材発掘や人材育成等将来を見据えたまちづくりの推進

⇒新しい公共の創造を担う、社会的ステイタスを持つ組織として活動





（３）（仮称）クリエイティブシティ横浜

組織として、強力にかつ効果的に機能するために、以下のような機構を導入する。

推進ボード	地元の活動団体、関心を寄せる日本を代表する企業等の参加により、戦略的な推進母体を設立。
プロデューサー	多彩なネットワークを持ち、支援すべきプロジェクト、アーティストを選定できる力量のあるプロデューサーを選定。 具体的な事業をプロデュースする。
サポーター	組織の活動の支援団体、応援団の役割を担う。 世界にアピールできる人材を組織に供給、活動の支援を行う。

クリエイティブシティを推進するために、当組織は、民間と公共、民間と民間を相互につなぐ役割を担って、以下のような活動を行う。

①「具体的な取り組み」に向けた事業推進

・ナショナルアートパーク構想の中で提言された「具体的な取り組み」の実現化に向け、事業を推進する。文化芸術部門、産業振興部門、まちづくり部門の視点からのプロデュースを行う。

＊文化芸術拠点形成に向けての主要プロジェクトのプロデュース

⇒文化芸術活動の拠点の立案や整備、重点事業の企画調整

＊映像系産業等を対象としたビジネスマッチング

・具体的な事業者（企業、ＮＰＯ、個人等）の選定、事業委託

＊創造的産業の立地促進に向けて、立地・創業支援制度を構築

⇒オフィスオーナー、倉庫事業者等のコンバージョン事業に対して、初期費用の助成コンバージョンファンドの構築

⇒空きビルなどの再生に独自のノウハウを持つ事業者の「家守事業」の推進

②アーティスト等の活動支援

・横浜市芸術文化振興財団との役割分担を図りながら、アーティストの創作、発表、滞在居住の各局面において、活動をサポートする。

③創造都市形成に係るプロモーション

・横浜の「創造都市」形成に向けての取り組みを広く世界にアピールするための、広報、ＰＲ活動を行う。

＊シティセールス、イベント等の実施

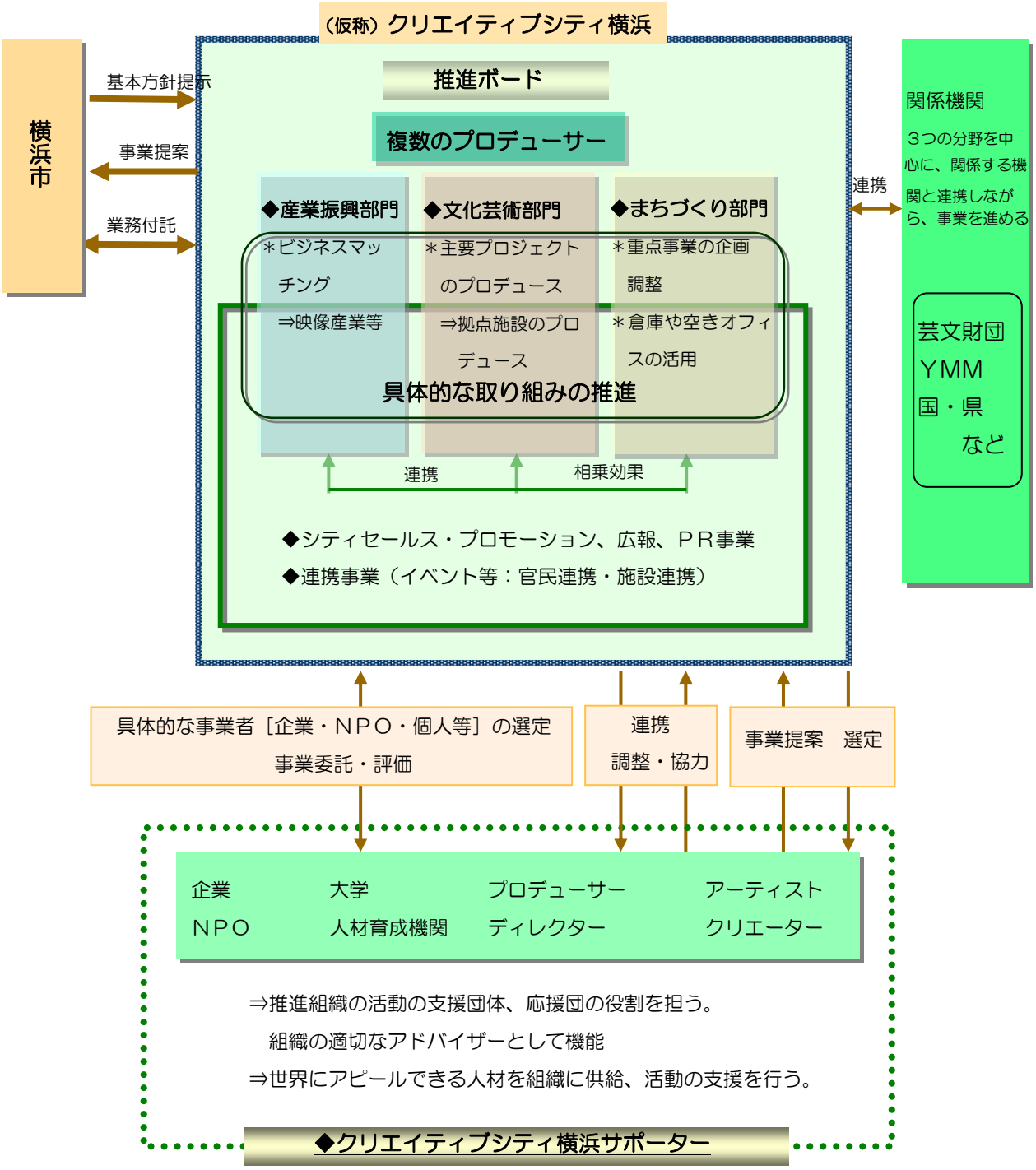
◆（仮称）クリエイティブシティ横浜の組織イメージ

（次ページ参照）

◆事業スケジュールの想定

２００９年まで	２００９年以降
◇組織の設立・活動の推進	事業拡大

（仮称）クリエイティブシティ横浜　【組織イメージ】



[参考資料]

＜参考資料＞想定される事業

□象の鼻地区

事　業　目　標	事　業　内　容	主　体　等
世界水準の文化芸術活動の創造	・象の鼻地区　文化芸術拠点の形成	市・国
歴史的みなと空間の復元	・象の鼻防波堤の復元活用 ・水域を囲む港の景観の復元、水域活用	市・国
魅力的な水辺空間の整備	・日本大通りから海へ連なる通景空間の確保 ・歴史的建築物の保存活用	市・国・民間

□山下ふ頭地区

倉庫等の転用による創造的産業集積促進	・山下ふ頭西側の倉庫のコンバージョン促進	民間主体・市の支援
法制度等の柔軟な運用	・国有地等の活用 ・臨港地区における用途制限等の柔軟な運用	民間発意→市・国
横浜トリエンナーレの継続的開催	・第２回展を踏まえ、第３回展の検討	市

□ヨコハマポートサイド地区

アート＆デザインの核施設整備	・市有地を活用した人材育成、地域活性化施設	市・民間

■馬車道創造界隈

ＮＰＯ等によるアート発信拠点	・ＢａｎｋＡＲＴ事業の発展的継承 ⇒旧第一銀行　日本郵船倉庫の活用	市・民間
民間倉庫のコンバージョン	・万国橋倉庫の創造的産業オフィス集積、立地助成	民間主体・市の支援
映像文化施設の整備	・東京芸術大学の誘致 ⇒旧富士銀行　新港客船ターミナル施設（暫定）	市・国
新港地区における国有地の活用	・国立施設の誘致促進	市・国
アジア等に発信する文化･芸術・産業の中核的施設整備	・デザインセンター ⇒北仲通地区再開発事業の中で民間主体整備誘導	民間主体・市の支援

■その他の創造界隈

歴史的建築物の活用による活動拠点形成	・芸術活動団体の育成拠点等の活用 ⇒旧関東財務局	市・民間
既存ストックを活用した拠点	・舞台芸術系稽古場等　⇒旧老松会館 ・アーティスト・イン・レジデンス⇒浦舟複合福祉施設	市・民間
アーティストの滞在居住空間	・関外地区における場の斡旋	民間主体・市の支援
空きビルのコンバージョン	・芸術不動産事業	民間主体・市の支援

◇ネットワーク形成

水上交通ネットワークの形成	・都心臨海部における水上交通ネットワーク形成 ・水上交通ターミナルの整備、水上タクシーの検討	民間主体・公共支援
東横線廃線跡地の活用	・駅舎および高架下の活用促進	市・民間（公設民営）

◆ソフト施策等

ナショナルアートパーク事業推進	・（仮称）クリエイティブシティ横浜の設立	民間主体・市の支援
クリエイティブシティの認知	・開港１５０周年に向けた国際的プロモーション	市・国・民間

「（仮称）ナショナルアートパーク構想中間とりまとめ」の意見・アイディア募集実施結果について

1　意見・アイディア募集について

市民からの意見等を踏まえ構想を推進するため、中間とりまとめに対する意見・アイディア募集を実施しました。

実施時期：５月20日（金）から６月20日（月）

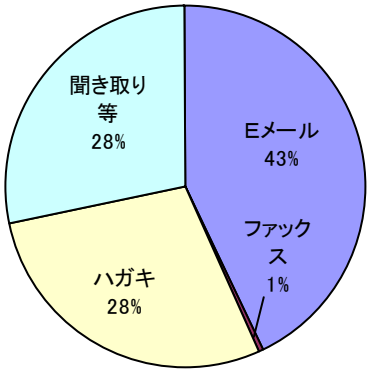
方　　法：区役所・文化施設等でのリーフレット配布
ホームページへの掲載
港湾関係業界等へのリーフレット配布
区役所等での聞き取り

2　実施結果

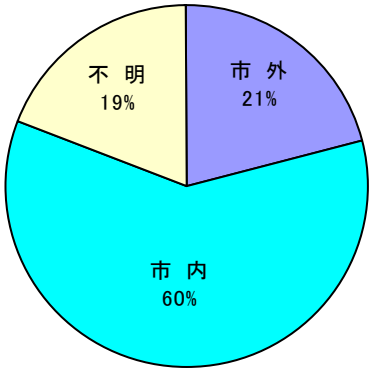
（1）意見総数：５３０件　（リーフレット配布5，０００部）

・意見を提出した人の6割が市内在住。また、世代別では３０代が3割を占める。

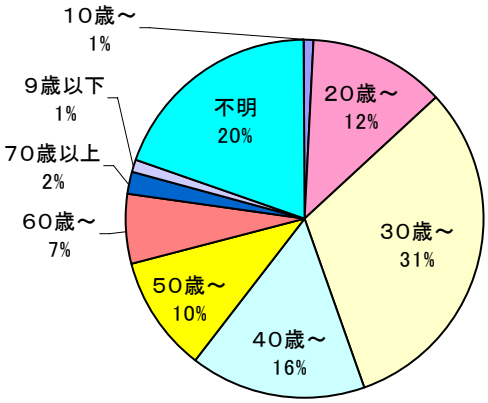
意見・アイディア提出方法



市内・市外在住割合



世代別割合



＜全体について＞

- 歴史や港、倉庫などの文化、景観など、地域の個性を生かしたまちづくりを進めて欲しい。
- 重点地区間や周辺地区などとの歩行者ネットワークの形成や水辺空間を利用した回遊性をはじめ、水上交通や路面電車など様々な交通手段による回遊性を充実して欲しい。
- 市民、アーティストなど、様々な人が集い、地域が活性化する、文化芸術や観光の拠点にして欲しい。

＜重点地区について＞

● 山下ふ頭地区について

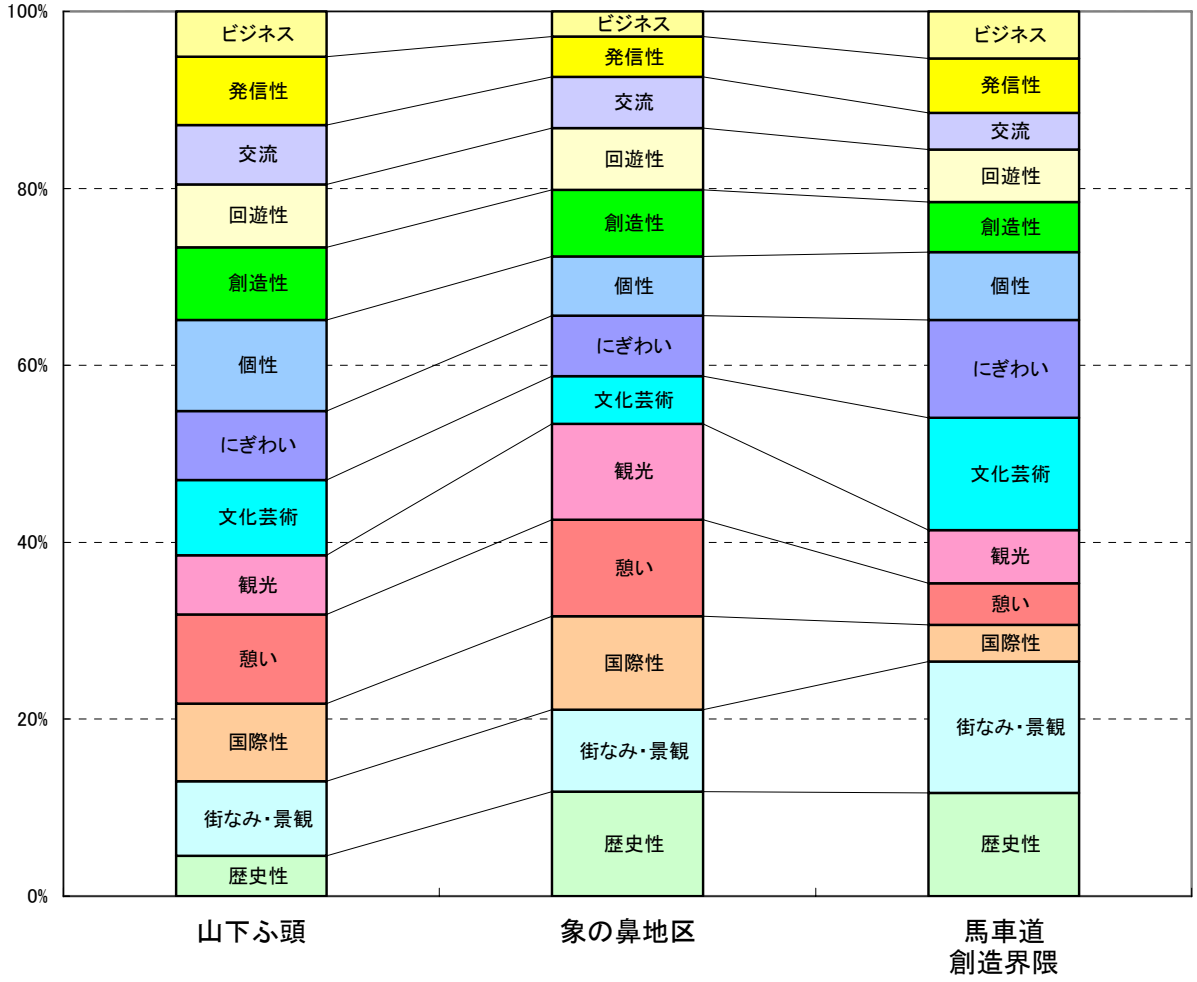
・ 水際線を意識した空間作り
・ 市民が利用できる場
・ 倉庫など港固有の雰囲気を生かしたまちづくり

● 象の鼻地区について

・ 歴史性を大切にし、活用する
・ 水域の活用と水辺空間の再生
・ 観光やアートの発信拠点の整備

● 馬車道創造界隈について

・ アート（映像やデザイン等）を軸としたまちづくり
・ 歴史を生かした街づくり



ナショナルアートパーク構想　―提 言 書―

平成１８年1月１９日

編集　ナショナルアートパーク構想推進委員会

〔事務局〕
文化芸術都市創造事業本部 創造都市推進課
〒231-0017　横浜市中区港町１－１
電話　０４５-６７１-２２８８
ﾌｧｯｸｽ ０４５-６６３-５６０６